

## 2050年カーボンニュートラル実現に向けた方針を策定

- 2030年度までに温室効果ガス（GHG）排出量を、グローバルで29%削減（2019年度比）
- 2050年までにGHG排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルを達成

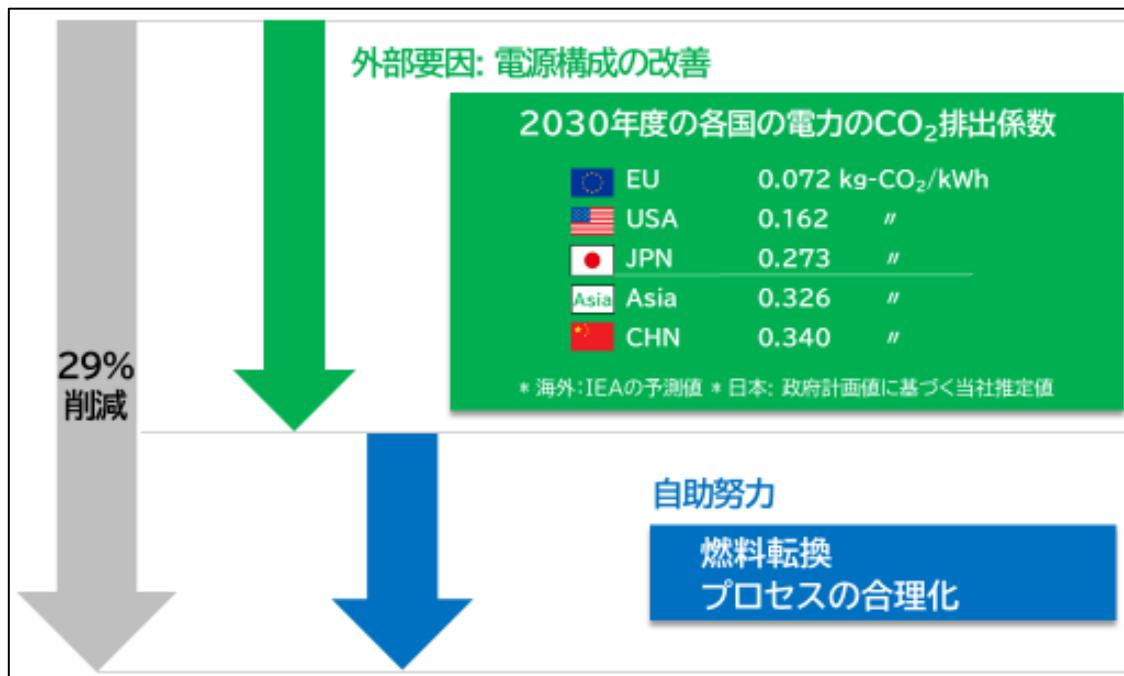
株式会社三菱ケミカルホールディングス

株式会社三菱ケミカルホールディングス（本社：東京都千代田区、社長：ジョンマーク・ギルソン、以下「当社」）は、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた方針を策定しましたのでお知らせします。

当社は2020年2月に発表した中長期経営基本戦略「KAITEKI Vision 30」において、GHGインパクトニュートラルが達成されていることを2050年にめざすべき社会の一つの条件として掲げ、その実現のため、バリューチェーン全体を通じたGHG低減・有効活用等の施策をすすめてきましたが、このたび、世界各国・地域の状況を踏まえ、以下の通り、グローバルなGHG削減目標（Scope 1, Scope 2）および方針を策定しました。

### **2030年度までに温室効果ガス（GHG）排出量を、グローバルで29%削減（2019年度比）**

製造プロセスの合理化、自家発電用燃料転換等による削減のほか、2030年度における世界各国・地域における電源構成に基づくCO<sub>2</sub>排出係数が下図の通りとなることを前提とする削減（外部要因）により、2030年度までにグローバルにおけるGHG排出量を29%削減（2019年度比）します。



## 2050 年までに GHG 排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルを達成

各国政府・機関・企業等のイニシアティブによる以下の条件（外部要因）を前提として、製造プロセスの合理化継続、バイオマス原料の活用や CO<sub>2</sub> の原料化等のイノベーションの実装、さらには植林等によるカーボンオフセットを含め、2050 年までに GHG 排出量を実質ゼロとします。

- ・ CO<sub>2</sub> フリーの電力供給
- ・ 水素・アンモニア等のサプライチェーンの確立及び低価格化
- ・ カーボンニュートラルに向けた研究開発・設備投資への補助 等



当社は、上記カーボンニュートラル目標を達成するために、2030 年までにおよそ 1,000 億円の設備投資を見込んでいます。

### 主要事業会社の取り組み

当社グループの主要事業会社である三菱ケミカル株式会社（本社：東京都千代田区、社長：和賀 昌之、以下「MCC」）は、2050 年のカーボンニュートラル達成を目指して、以下の目標を設定し、事業及び研究開発に取り組みます。

#### 1. GHG 排出量の削減目標

2030 年度までに MCC グループとしての GHG 排出量の削減目標（Scope 1, Scope 2）を以下の通り設定します。

世界 2019 年度比で 32%以上の削減

日本 2013 年度比で 43%以上の削減

#### 2. 目標達成に向けた取り組みの強化

##### ① エネルギー転換の実施

2030 年度までに国内事業所・工場においてより環境負荷の低い再生可能エネルギー・LNG 等の発電の導入を推進することで、石炭火力発電からの脱却をめざす。

## ② 社内炭素価格制度※の導入

GHG 排出削減の推進と事業成長の両立のため、2022 年度上期より社内炭素価格制度を導入する。Scope 1, Scope 2 だけでなく、削減貢献も評価対象とし、設備投資の判断指標の一つとして活用する。今後は、研究開発の投資判断にも制度対象を拡大させ、事業ポートフォリオ戦略の指標としても活用していく。

※社内において炭素価格を設定し、GHG 排出量を金額換算することにより排出削減を動機づける制度。

## ③ ライフサイクルアセスメント実施体制の強化

2022 年度上期中に MCC の国内事業所・工場で生産される全製品について、カーボンフットプリント※を速やかに算定できる体制を確立する。デジタル化や従業員への教育を推進し、スピーディーに算定を行うことで、製品チェーン全体での GHG 排出削減に向けた取り組みを加速させる。

※原料含む製品製造までの GHG 排出量。

以上

お問い合わせ先

株式会社三菱ケミカルホールディングス コーポレートコミュニケーション室

電話：03-6748-7140